

「ようせいフォーラム2007」のご報告

大会実行委員長 谷 祝子 (神戸女学院大学)

日本養生(ようせい)学会大会「ようせいフォーラム2007」は 2007年3月10日(土)、11日(日)に神戸女学院大学に於いて開催いたしました。

以下、簡単ですがご報告いたします。

第一日目は夕刻より雨が降り始め、翌朝まで強風も続きましたが開始時刻にはお天気に恵まれ盛会のうちに無事終了いたしました。ご参加くださいました先生方、山の上のキャンパスによろそお越しくございました。辛苦了!!

初めて東京を離れての開催で、関東に比べ会員数の少ない関西でということもあり心配でしたが常任理事会、理事会に11名ご参加いただき、各々旧新年度の活動報告、(案)、各事業報告、(案)、新役員等について報告と協議を経て、総会に諮り了承を得ました。

研究発表の演題も6題と発表の幅広さとご発表に対して活発な質疑応答がなされました。第4セッションでは座長・発表者勢ぞろいで発表内容についての討議以外に、授業の評価方法等々についての話題に時間が足りないくらいに盛り上がりを見ました。

内容等についての詳細はニューズレター等で報告があります。

研究発表の抄録は先生方にお許しを得て掲載しておきますのでご覧ください。

第二日目の午前中はワークショップで劉莉氏が「知っているようで、知らない。やっているようでできていない。24式の動きから再考してみよう」をテーマに

* 梢起、中隋、根摧=動きは抹消から起こして、中関節は従って行って、根関節はエネルギーを送り続けることによって、けい(力)を通す。

* 体の使い方について: 体で腕を引っ張る動きと、体で腕を送る動きの切り替えが適切であるかどうかは動きをスムーズに行うポイント。

太極拳とは何? 最も基本的なこととは何? 最も忘れがちなこと、最も重要なものの感覚的な部分をワンポイントとして、《起勢から野馬分鬃まで》《雲手から単鞭まで》を実践しながら、理解して体感することを実践しました。それぞれ参加者のレベルの違いはあっても終始和やかで楽しい時間でありました。(約80名)

午後は谷の司会で、開始にあたりシンポジウムを担当する劉莉、宮本知次、谷祝子の紹介と、共催団体の方々へ本学会の理事長横沢喜久子氏よりご挨拶をいただき、シンポジウムに移りました。

シンポジウムのテーマは《簡化24式太極拳制定50周年に太極拳のあり方を考える》としたなかで、《太極拳への再考》として、まず午前中のワークショップの関連で劉莉氏が映像にまとめたものを使いながら、1、太極拳の流れ、2、口伝から授業方式へ、3、普及と競技、4、スポーツ的身体運動と伝承的身体運動の違い、5、身体運動に起きる勘違

い、6、より理解し、レベルアップするための見直し、について講演をしていただき、続けて、「写真から何かが見える」と題して、数枚の写真を見る。例えば、「自然な強調された動き」、「覇気に満ちた動き」他、また「しなやかな動き」として体の柔軟（柔靱）、隙のない綿密な動き等を写真で紹介がありました。

最後に演武では、劉莉氏「楊式剣太極拳」「楊式太極拳」宮本知次氏「伝統呉式太極拳」最後に劉莉・谷祝子で「梅花扇」の対練を表演し、2日間の学会を閉じました。

今、こうして報告をまとめながら改めて思うことは、学会をやって良かったということです。視野の広がりや出会い、人のつながりなど充実感とともに得るものがたくさんありました。開催の機会をいただいたことに感謝いたします。詳細はいずれ研究会誌等で原稿にいたしますのでお読みいただければ幸甚です。写真も合わせてご覧下さい。謝謝